

國境で止まれ」と言つたけれども、「承知しました」と言ひながらドン／＼侵入してしまひました、その勇ましい有様は諸君の記憶に新たなる所であらう。同じ軍隊であるが、唯だ頭に戴く者がちよいと更る時に於て、今まで國が亡びるといふ状態が、反對に國境を越えて攻入る程の勝ち軍となつたのである。思想もその通りである、下手な思想を頭にして置けば「こいつもいかぬ、彼奴もいかぬ」と犬死、のたれ死をさすやうになつて、益々思想が混亂する。勇將の下に弱卒なしといふが、今日の思想にいろ／＼悪いものもあるけれども、之を統率する所の大思想を有しない事が、國家の禍ひである。然らばその統率する思想とは如何、是れが實は大事ナンである。少々ぐらゐは悪い奴が來ても、統率者が良ければ用を爲す、ちやんと軍規が行はれるが、統率者が悪かつた時には駄目である。

そこで先づ我が過去の思想に歸つて考へたならば、是れは統一大成して來たものであります、その統一大成はどうして出來たか、私が屢々論明するが如くに、惟神の教の良き所と、聖賢の教、佛教の教の善き所とを併せ成して、今日までズツと來て居る、神道の方を考へても十派に分れて居りますが、その中で採るべきものは唯だ一つであります、先づ純神道といふのは儒教、佛教の渡らない前のものであるから統一大成といふ事に於ては素朴貧弱である、純粹のものであるけれどもそれは文化が進まないと、儒教、佛教が交はつて初めて日本の文明も豊富になつて發達したことは否むことは出來ない。是れが交はつた時起つたものが、傳教大師の一實神道といつて、佛教と神道とを併せたものである、それから弘法大師の兩部神道とこり、これに反抗したるものが古川惟足といふ人の唱へた唯一神道である、唯一といふのは佛教を蹴つて唯だ神道だけで行かうといふ思想である。それから度會延佳の社家神道といふのは非常に佛教を罵つて「伊勢の神様は佛教は大嫌いぢや、坊主などは傍にも寄せぬ」と言つて坊主の參拜を禁じてしまひ、「佛教の息の根を止めるといふ神様の託宣があつた」といふやうな事を言つて非常に佛教を罵つた。それから垂加神道を出崎開齋が唱へた、